

# 図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

## 目次

図書館報みかづら第25号の刊行に 当たって-----	1	本は心の栄養-----	5
100分de名著-----	2	おすすめは-----	7
和歌山にて-----	4	令和2年度三葛館活動記録-----	8

## 図書館報みかづら第25号の刊行に当たって

保健看護学部 教授・図書館副館長 宮井 信行

令和3年4月1日付で図書館副館長を拝命しました。図書館職員の協力を得ながら業務の推進、企画の運営などの職責を全うしていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

三葛館では、毎年3月に「図書館報みかづら」を発刊しています。保健看護学部がまだ短期大学部であった平成10年に創刊され、それから20年以上継続して刊行されています。主に三葛キャンパスの教職員や学生から寄稿していただき、第25号では、今年度に退職される先生と新たに赴任された先生に執筆をお願いいたしました。先生方の図書館や読書についての想いが伝わるメッセージが込められています。ぜひお読みいただければと思います。

さて、本学の図書館は、紀三井寺館、三葛館に加えて、今年度から新たに伏虎館が開館しました。質の高い情報サービスの提供による研究環境の充実、ラーニングコモンズ等による学習環境の整備など、各キャンパスの教育理念や学生・教員のニーズに対応した支援体制の拡充と機能強化に取り組んでいます。

また、コロナ禍を通じて新しいサービスも展開しています。登学制限に伴って図書館利用が難しくなるなか、図書館では電子ブックや学内の電子コンテンツを学外からいつでも利用できるリモートアクセスサービスの運用を進めました。学生は授業や実習の準備に、大学院生は研究に必要な文献の検索・収

集などで有効に活用していただけたものと思います。デジタルやオンラインといった情報通信技術を利用したサービスは、コロナが終息した後も引き続き需要が見込まれますので、より利便性の高いシステムにしていくことが必要です。一方、例えば、課題にあった参考図書が探せないときや、必要な文献が上手く見つけれられないときなど、図書館職員の専門的なアドバイスが欠かせない場面も少なくありません。こうした対面による直接的なサービスも大切にしていかなければいけないと考えています。

最後になりますが、今年度も新型コロナの影響で、幾度となく臨時休館や短縮開館を余儀なくされました。学外者の方々に対しては今も利用をご遠慮いただいております。皆様にご不便をおかけしたことをお詫びいたしますとともに、ご理解・ご協力いただきました関係各位に感謝を申し上げます。

今後も、学生、卒業生、教職員、そして学外者の方々からも親しまれる図書館となるように努力してまいります。多くの方々のご来館を心よりお待ちしております。



## 100 分 d e 名著

保健看護学部 教授 山 口 雅 子

古今東西の名著を 100 分で読み解いていく「100 分 d e 名著」という番組で取り上げられた本について書いてみます。わかりやすい解説、イメージ映像に朗読で名著を紹介してくれる番組です。「ネバーエンディング・ストーリー」の作者であるミヒャエル・エンデの「モモ」は、読まれた方も多と思います。「モモ」の物語は、聞く力の大切さや時間の持つ意味や命の本質などの示唆を与えてくれ、子供向けというより、大人が読む本であると番組から気がつき、再度読み直しました。彼の配偶者は日本人で「モモ」は百と書けるので長い時間の豊かさを表す物語の主人公に適した名前なのかなと思いました。

次にご紹介するのは、レイ・ブラッドベリーの「華氏 451 度」です。華氏 451 度とは紙が自然発火する温度です。本は社会の害とされ、本が燃やされる近未来のディストピア（ユートピアの反対の暗黒郷）の物語。情報は全てテレビやラジオによる画像や音声などの感覚的なものばかりの社会。漫画以外の本の所持が禁止される社会。主人公は Fireman。この物語では、Fireman は消防士でなく昇火士。本を所持していると通報があれば、家に駆けつけ、家ごと焼却するのが彼の仕事。本の所有者は逮捕され、時には所有者自身も本とともに焼き殺される社会です。密告も奨励されています。ものごとを考えない社会。自殺未遂をしたいほど空虚で悩んでいても、体液をすべて入れ替えることですっかり忘れるような医療がなされる社会。思考を深めたり、記憶したり、多様性について考えることは社会の敵とみなされます。お葬式に関しても 5 分後には灰にしてしまいます。故人を偲んで悲しんだり懐かしんだりすることは無用、すぐ忘れてしまえという社会。人々は思考力と記憶力を失っていきます。人類は平等、同じものを消費し、同じような快樂を得ることで同じように幸福になれる。人々が異なる自分なりの幸福を

求めるのは間違いであり、みんな平等の幸福。本を読む者は、読まない者に嫉妬や劣等感を与え、心の平安を乱す存在。隣の家に本が一冊あれば、弾丸をこめた鉄砲があるのと同じ、危険なものは焼き払え。みな同じでなければならない。豊かな知識を持つ者はいてはならない。主人公の Fireman は、本とともに焼け死ぬことを選択した女性を目の当たりにしたことなどから、本を燃やすことは人の人生を燃やすこと、人類の記憶を燃やすことなどに気がついてしまいます。本を丸暗記し人類の財産を保存しようとする人々も現れ、主人公も仲間に入ります。この物語の恐ろしいところは、多くの人が本を読まなくなり、本を読む少数派が排除され、思考の多様性や思考の深さは社会の敵となるのは、多くの人が望んだ結果ということです。この本を読みたいと思いましたが、書店には無く、図書館で借りて読むことができました。100分で名著を読んだ気になるのもおかしいですね。

最後に、「金子みすゞ詩集」のご紹介です。東日本大震災の後、「こだまでしょうか」が放送されました。「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう詩です。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」もご存知かと思います。みすゞさんが他界して54年経って彼女の詩集が発刊されました。彼女は童話雑誌に投稿することに生きる意味を見出していたのに、昭和に入り戦争にむかう時代に、童謡雑誌も廃刊されます。彼女は、夫から淋病をうつされ、当時は抗生物質もなく、入院を余儀なくされるほど体を壊し、その後夫と離婚。親権は夫にあり、子どもを手放す、その当日に彼女は26歳で自ら命を絶ったことを番組から知りました。

「女の子」この詩に書かれたみすゞさんの気持ちはどうだったのでしょうか。

女の子って  
ものは、  
木のぼりしない  
ものなのよ。  
竹馬乗ったら  
おてんばで、  
打ち独楽するのは  
お馬鹿なの。  
私はこいだけ  
知ってるの、  
だって一ぺんずつ  
叱られたから。

『空のかあさま』

### 令和3年度ベストリーダー賞

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は在学中貸出冊数上位者の表彰式を行わないこととなりました。

上位10名の方々にはささやかではありますが記念品をお送りさせていただきました。

1位の方の年間貸出冊数は32.7冊でした。

図書館をご活用いただき大変嬉しく思います。

卒業生の皆様、図書館をたくさんご利用いただきありがとうございました。



## 和歌山にて

助産学専攻科 助教 吉川 さ わ 子

今まで和歌山とはまったく無縁の場所で生きてきたのにもかかわらず、何の因果かこの5年間はどつぷりと、この地に根を下ろすことになった。せっかくなのでこの地に関係の深い作家の作品を手にとってみよう、ある日三葛館を訪ねた。

あまり詳しくはないが和歌山にゆかりのある作家として耳にしたことがあったのは、有吉佐和子、佐藤春夫、津本陽、中上健次あたりであり、恥ずかしながらどの作家の作品も学生時代の国語の教科書に載っていたものを漠然と覚えていた程度だった。

とはいえ、有吉佐和子はほかの作家と比べて、多少は知識があった。記憶の中では看護学生時代に成人看護学の課題だったか「恍惚の人」を読んだこと、舞台化された「華岡青洲の妻」を観劇したことが浮かんでくる。有名な「複合汚染」や「紀ノ川」など、タイトルだけは何度か目にしたことはあったが、手にとってまで読もうと思ったことはなかった。そこで、今回はぜひ日常生活の中にも馴染みが出てきた「紀ノ川」を読んでみようと思い、手にとった。

和歌山で生活を始めて、地名や特産品など初めて触れるものも多く、毎日新鮮な気持ちで過ごすことができた。たまに時間ができるとかつらぎ町方面へ車を走らせ、丹生都比売神社は大のお気に入りの場所となった。丹生都比売神社へ向かうときには、いつも紀の川がゆったりとしたその流れを車窓に横たえていた。

紀ノ川の佇まいは、以前過ごしたブータン王国の「Chhu (チュ：川)」にどこか似ていた。川幅が広く、豊かな水量、穏やかな流れで、海のない国であるブータンでは町のいたるところに川が流れており、人々の生活には欠かせない水源であった。

紀ノ川にそんな思いを抱いていたこともあり、小説の内容は全くわからないまま、タイトルに惹かれて「紀ノ川」のページを開いた。そこには、実際に音として聞いたわけではないが、とても心地よい響きだと思われる言葉と景色が並んでいた。

登場人物である豊乃や花から発せられるお国言葉から、その性格や生き方までもが伝わってきた。今から120年以上も前の時代が舞台ではあるが、豊乃の凜とした生き方や、花の葛藤をしながらも自分の生きる道を見出し、それを受け入れてゆく人生は、令和を生きている今の時代でも共感を覚える。時代は違っても、豊乃や花のように筋の通ったかっこいい生き方に憧れる。お国言葉で語られるがゆえに、なおさらその地での、その生き方が印象的だった。

また、日本全国には様々な場所があるが和歌山にいて、その地で生活をしたことのあるものにはかわからない、独特の雰囲気や景色を感じながら読み進めることができた。市内で車の運転をしていた時に、「六十谷」という地名が出てきたものの、すぐには読めず、まあ、声に出して読めなくても運転には支障はないため、自ら調べたりはしていなかった。しかし、小説にその地名がでてきたことによって、「六十谷」の地名（読み方）と位置がしっかりとインプットされた。それ以来、六十谷を通るたびに小説「紀ノ川」が頭に浮かぶ。

小説「紀ノ川」は、120年前の和歌山と現在の和歌山を繋げ、そのおかげで私の和歌山考は間違いなく深くなった。

さらに、作者の有吉についてはもう一つ、私とは深い関連がある。

「サワコ」という名前だ。何十年も生きてきて、和歌山へ来るまでは身近で同じ名前の人とは出会ったことがなかった。ところが和歌山へ来た途端、なんと「サワコ」さんの多いことか！

以前、自分の名前の由来について、母に尋ねたことがある。うっすらとした記憶ではあるが、その時に「有吉佐和子」の名を母は口にしたように思う。読書家の母は、私の出生時にはすでに小説家として活躍していた有吉佐和子に傾倒していた時期があったのかもしれない。有吉のような、歴史にも精通し、現代社会にメスを入れ、問題提起のできるような小説家になることを私に託したのであろうか。残念ながら有吉のような小説家にはなれないが、和歌山で助産師教育に携わり、今まで経験したことのない様々な困難にぶち当たり、それでも何とか周りの皆さんに支えられ、ここまで過ごすことができた。和歌山の地はよそ者の私を温かく受け入れてくれて、送り出してくれる。ここで培った関係と和歌山愛をこれからも深めていきたいと思っている。



## 本は心の栄養

保健看護学部 助教 辻 本 宏 美

私自身、学生の頃、課題や試験勉強のため、必要に駆られて専門書や参考書を読むことがほとんどで、読書はしたことがあまりありませんでした。本を読むのが苦手な上に、やらなければならない課題等が優先されるので、読書に意識が向かないといった状況でした。しかし、当時の教養セミナーにおいて、グループ内で選んだ1冊の新書を読んでいくという課題を受け、取り組んでいくうちに、読書は、時代を超えて偉人の言葉に触れたり、自分の日常生活では経験できないものを疑似体験できたり、心を揺さぶられ感動したりと、良い面がたくさんあることに気づくことができました。「本は心の栄養」「本は心のごちそう」等という言葉も聞きますが、本は、視野を広げ、心や人間性を豊かにしてくれる身近なものなのだと思うようになったのです。それからは、意識して本を手取るようになりました。

自分はあまり本を読んでこなかったのですが、我が子には本を好きになってもらえたらいいな、心豊かに育ってくれますようにと、長男の誕生以降、意識して絵本の読み聞かせをするようにしています。就寝前に時間があると、読み聞かせタイム！子ども達は自分の好きな本を1冊ずつ選んでもってきます。最近では、3人とも成長してきて、文章が長めの絵本が重なることもあり、読む側としては辛かったり

もするのですが、興味津々に、キラキラとした表情で集中して聞いてくれているので、頑張っています。また、絵本ではありますが、読み聞かせしながら、自分もそのストーリーに引き込まれ、心温まることもあり、不思議なものです。読み聞かせの甲斐あってか、特に小学1年生の長男は本が好きで、学校の休憩時間によく図書館へ行っているようで、度々本を借りて来ては自宅でも読んでいます。また、休日は、家族で和歌山市民図書館に出かけるのもイベントの1つになっています。施設が綺麗な上、年中無休、大人向けの書籍はもちろん児童書も充実していて、年代を問わず楽しめるのでオススメです。長男は自分の興味のある本があるかを検索したり、手に取って読んだりといつも満喫しています。長男の読む本のジャンルは物語や図鑑、漫画等、色々ではありますが、本に親しんでいるおかげか、会話の中でも時に小学1年とは思えない表現で感心させられることや、恐竜や生き物の飼育方等について詳しく、私が教えてもらうことも多々あります。今まで30数年生きてきましたが、たぶん長男がいなければ知らずのままだったんだろうと、世界を広げてもらっていると感ずることがあります。私は幼い次男・長女に付いて回ることが多く、今はゆっくりと本を探すこともできていませんが、子ども達がもう少し成長したら、私自身もゆっくりと図書館での読書を一緒に楽しみたいと思うこの頃です。

図書館三葛館には、学生の頃、課題や試験勉強でお世話になりましたが、教員になってからも、講義や演習に向けての自己学習や、研究に関する文献検索等、引き続きお世話になっています。新型コロナ感染症の影響もあって、人がほとんどおらず、少し寂しく思います。コロナ禍が明けて、以前のような三葛館（大学全体もそうですが）に戻る日を待ちわびるばかりです。学生の皆さんにおいては、遠隔講義になることも多かったため、三葛館に立ち寄ることが難しく、調べものをするのにもご苦労があったと察します。図書館では、リモートアクセスサービスによる電子ブックもご用意くださっており、新しいものが随時追加されていますので、こんな時だからこそぜひ活用しましょう。三葛館は看護系・医学系の専門書籍や論文雑誌が多く揃い、専門的知識を高められることはもちろん、専門書以外も充実しており教養を深めることもできます。英語の本もあるんですよ。整理されているので検索もしやすいですし、探しのものが見つからない時は、司書さんが親切に対応して下さります。登学の際には、身近に活用できる三葛館にぜひ立ち寄ってくださいね。何気なく訪れたとしても、それをきっかけに心を豊にしてくれる本と出会えるかもしれません。

## MIKAZURA NOW!

### 2020年度 利用統計

年間開館日	229日
入館者数	3,538人
(1日平均)	15人
貸出人数	2,119人
図書貸出冊数	6,207冊
視聴覚資料貸出件数	115点
相互利用依頼件数	249件
相互利用受付件数	654件
学外利用者数	0人

### 三葛館の蔵書 2020

蔵書冊数	64,637冊
うち洋書	9,242冊
所蔵雑誌種数	1,116種
うち外国語	148種
年間受入図書冊数	819冊
うち洋書	11冊
年間受入雑誌種数	319種
うち外国語	3種
(2021/3/31現在)	

## おススメは

保健看護学部 助教 森 下 美 佳

「本を読むことをおすすめします」人生の先輩方は、よく教えてくださいます。

私は、図書館の雰囲気が好きです。静かですが、文字の飛び交う賑やかな雰囲気が。人がたくさんいる街中よりも、図書館にいるときの頭の中の方が賑やかな気がして、表紙から目に飛び込んでくる魅力的な言葉の数々に胸が躍ります。特に三葛館は、興味惹かれる図書が多いところが好きです。専門書や話題の書籍など、知識と教養を身に付ける手助けをしてくれます。

図書館にいるときは、すてきな本が多く、旅行している気分になることがあります。本棚の前は駅のプラットフォーム、目的の本への道のりが、電車に乗って旅行するみたいです。探していた本に知りたかった内容が見つからないこともあります。降りた駅に行きたいお店がない時みたいな気分になりますが、そんな時はまた移動して別の目的地を探します。その時、偶然見かけたところが、後々のお気に入りの場所になることもあるかもしれません。寄り道したりして、いろんなことを知っている人の方が、次に旅行に行く時に楽しめると思います。

締め切りがある課題は、インターネット検索の力を借りて、特急からのタクシー移動で目的地まで直行することもあります。自分で調べて分からない時は、頼りになる司書さんの力を借りてつれて行ってもらいます。歩いて一周数分もかからない図書館ですが、よく迷子になるので。いろんな本探しの旅が味わえるのが図書館の魅力だと思います。

人と話をする 것도好きです。自分が考えていなかった気づきを得られるから、相手が培ってきた経験や考えを自分は何年も飛び越えて知る機会になるからです。新しい気づきは、自分が問題にぶつかったとき、解決に導いてくれるかもしれませんし、気分が落ち込んだとき、考えを楽にしてくれるかもしれません。私は、たくさんの知識や考え方に助けてもらい、楽しく過ごせる時間をもらえた気がします。

これまで私を助けてくれた言葉を贈ってくださった先輩方は、どこでそんなすてきな知識や考え方を身に付けるのだろうと思うことがありました。伺ってみると、たくさんの本を読んでいらっしゃいました。本を読んでヒントをもらい、乗り越えてきた経験を伝えてくださっていました。ただし、本を読むだけでは他人の考えに触れているだけで、自分のものになっていないとも教えてもらいました。得た情報をしっかり自分で考えることが一番大切な過程で、誰かに言葉として伝えるときは、自分の言葉になっていないとうまく伝わらないとのことでした。たしかに、参考書に書いてあるとおりに患者さんに説明しても、納得した反応が得られないことがありました。本を読んだ後も、人から話を聞いた後も、自分なりに考えることをしないと、すてきな言葉として出てこないようです。

本を読んで、人と話することで、知識や考え方の引き出しが増えてきたと思います。まだまだ、整理されていなくてごちゃごちゃした中身ですが、何度か言葉として話して、出したり、しまったりをくり返すうちに少しずつ形が整ってきたものもあると思います。

大学生のころは、必要な知識の引き出しを、講義でいっぱいに詰めてもらいましたが、自分なりに整理できていないと試験ではきちんと取り出せなかったです。実習では、もっと整理できていないと言葉にもならないし、体も動きませんでした。知識不足を経験した後で、本を読んで、知識と経験の結び付

けをして、少しずつ自分のものにしていきます。そうしていつも思います。本を読んでおけばよかった。

看護師のころも今もそうですが、引き出し不足のためまだまだ詰め込み作業が続いています。ただ、ほんの少しの機会には、経験より先に本で読んだ内容が頭に浮かんで、もしかして…と対応できることがあります。相手の話がよく理解できたり、急変の予兆を見つけられたり…そんなとき思います。本を読んでいてよかった。

本を読んで自分で考えた時間は、これまでの私を助けてくれました。きっとこれからも。

ただ、この先、誰にどんなことが起こるのか分からないので、みなさんにどの本を読めばいいかをおすすめすることは難しいと思っています。どんな本がどんな時に役立つのかは、人それぞれだと思うので…

具体的なことではないのですが、私もお伝えします。「本を読むことをおすすめします」

.....

## 令和2年度（2020年度）三葛館活動記録

4月7日	保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
	※医学部・保健看護学部・助産学専攻科は、 図書館HPにて利用に関するスライドと動画の掲載を行った
8月3～7日	蔵書点検
12月3日	第1回保健看護学部図書委員会
2月2日	令和2年度保健看護学部卒業生バストリーダー表彰式

### 編集後記

図書館報みかづら第25号は、4名の先生方に図書館や読書への思いを綴っていただきました。ご紹介いただいた本の中には当館で所蔵しているものもあります。是非手に取ってみてください。

この1年も利用制限を設けての開館となり、利用者の皆様にはご迷惑をおかけしております。

今後も状況に応じたサービスの提供に努めて参ります。

~~~~~

令和4年3月30日発行

図書館報 みかづら（第25号）

編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館

〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地

TEL (073) 447-2300 (代表)

(073) 446-6721 (三葛館)

FAX (073) 446-6730 (三葛館)

<https://opac.wakayama-med.ac.jp/drupal/>

~~~~~